

# 我が国の現状② 我が国企業のオープンイノベーションの遅れ

・企業の国際競争力強化のために「オープンイノベーション」の取組が重要。

研究開発戦略による全要素生産性の違い

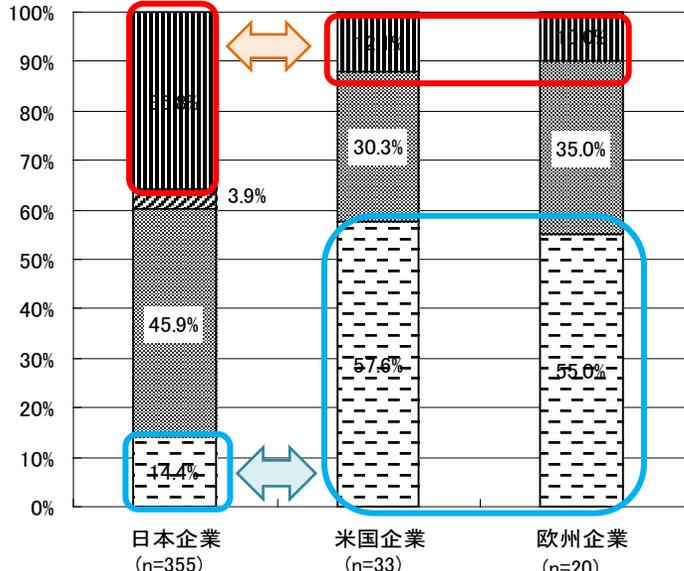
R&Dタイプ	全要素生産性(TFP)の平均値
R&D無し	0.425
内部R&D	0.887
外部R&D	1.096
<b>内部+外部R&amp;D</b>	<b>3.850</b>
全企業	1.000

(出所) ITO Banri and TANAKA Ayumu "Open Innovation, Productivity, and Export: Evidence from Japanese firms" (RIETI Discussion Paper Series 13-E-006) 2013年2月

備考) 同論文では、統計的分析により、内部・外部R&D実施企業は有意に生産性が高いことを実証している。データソースは、企業活動基本調査(1997~2007年)。

・日本では、オープンイノベーションの取組が欧米に比べて遅れている。

外部からの権利購入の傾向(直近10年間)

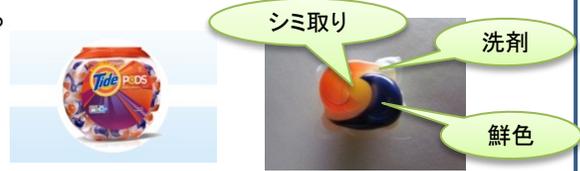


(出所) 特許庁平成24年度知的財産国際権利化戦略推進事業

・異なる組織間の共同研究等により、革新的な製品が生み出される。

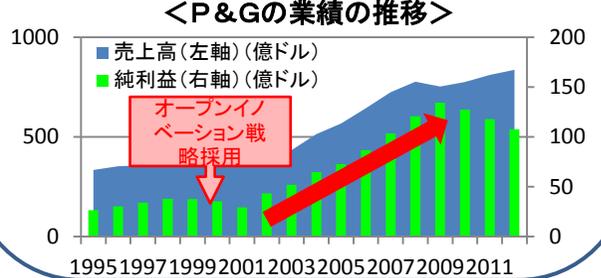
## タイドポッド洗剤 <P&G社>

- ・タイドポッド洗剤は、3つの異なる洗剤成分を各袋の中に別々に包装し、温水から冷却水までのあらゆる水温において溶ける製品。
- ・P&Gは、この開発のために、MonoSol社(米国インディアナ州の中小企業)の水溶性フィルム送達に関する最先端技術を導入し、共同開発し製品化に成功。



・販売開始から1年で5億ドルの製品ブランドに成長。

(参考) P&G(米)は、外部との協力によるイノベーションを50%にする目標を設定。それ以降、売上高・純利益ともに拡大。

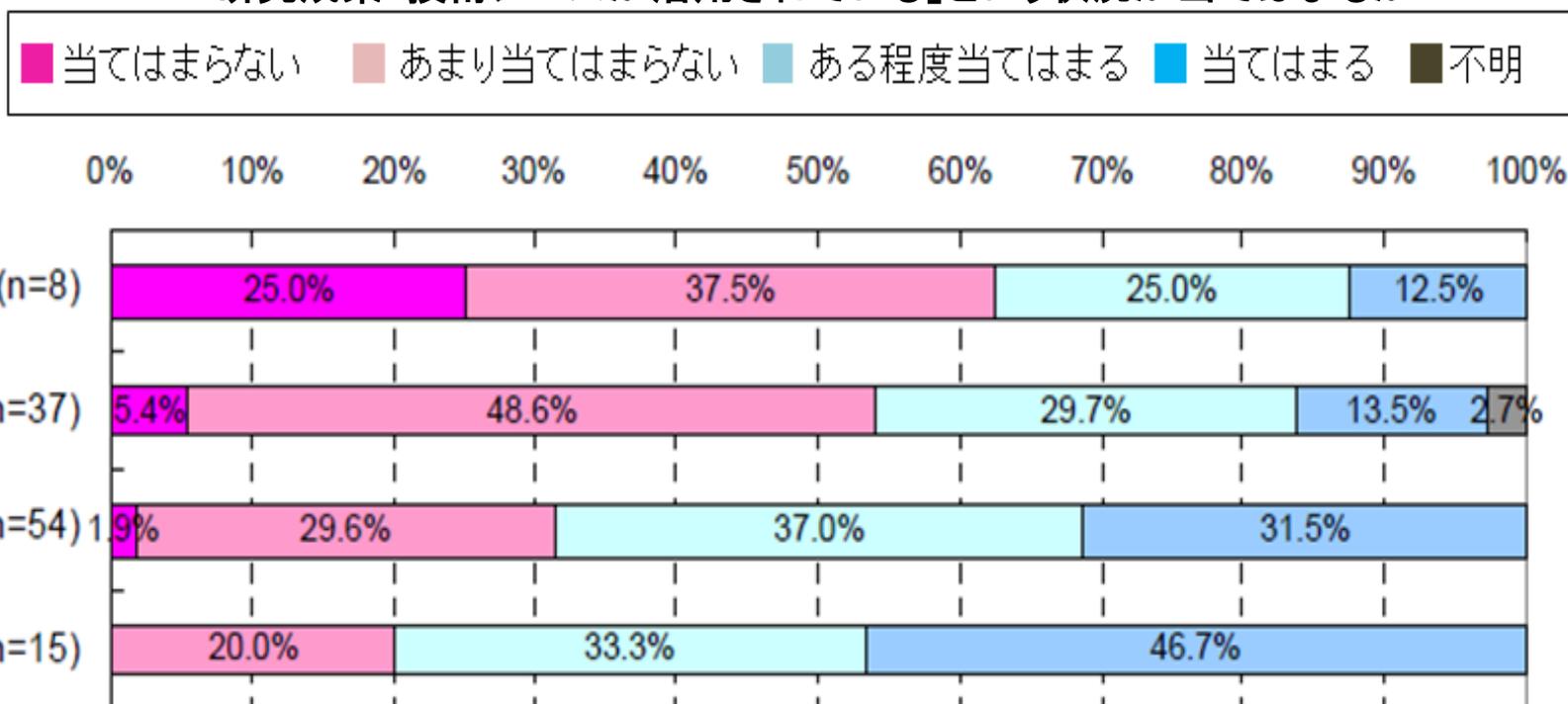


# 我が国の現状③ 新技術の市場投入の遅れ

・大企業は新技術の製品化に消極的である一方、中堅、中小・ベンチャー企業は積極的だが、人材や事業化に必要な関連技術が不足。

＜資本規模が小さい企業ほど研究成果・技術シーズ活用の割合が高い傾向＞

「研究成果・技術シーズが活用されている」という状況が当てはまるか



(出所)平成20年度産業技術調査「コーポレートベンチャリングに関する調査研究」